

天体観測ドーム 今月のOPEN

18:30~21:30 まで（晴天時のみ）

2/

1 日(日)・7 日(土)・8 日(日)・11 日(水)・14 日(土)

15 日(日)・21 日(土)~23 日(月)・28 日(土)

星空通信

2026 年 2 月号



今月の惑星情報

- 4 日 天王星が留
- 9 日 下弦
- 17 日 新月/南極で金環日食
- 20 日 水星が東方最大離角
- 24 日 上弦
- 26 日 水星が留



★用語解説★

りゅう
留…惑星が順行⇄逆行へ変わる時、地球から見た天体上で、太陽からもっとも離れる瞬間

きんかんにっしょく
金環日食…月が太陽と地球の間に入り、太陽を完全に隠しきれずに太陽の周りに光の輪（リング）が見える天文現象

とうほうさいだいいりかく
東方最大離角…地球から見た天球上で、太陽の東側に最も離れる瞬間

2 月の星空

南の空で見つけやすいのがオリオン座です。3 個の明るい星が並ぶ「三ツ星」とその近くでオレンジ色に輝くベテルギウスと青白く輝くりゲルの 2 個の一等星などを含む長方形に似た形が見つかります。

三ツ星を下にのばしたあたりでひときわ明るく輝くおおいぬ座のシリウスと、こいぬ座のプロキオン、ベテルギウスを結んだ三角形が「冬の大きな三角」。その上には、ふたご座のカストルとポルックスが見えます。また三ツ星を上にもとくと、おうし座の一等星アルデバランが見つかります。

ほかに、オリオン大星雲やおうし座のプレアデス星団など見所がいっぱいです！

水星

月初は日の入り直後の西の低空に位置、徐々に高度を上げ、20 日に東方最大離角となる。16 日~23 日は日の入り 30 分後の高度が 10 度を超え、見つけやすくなる。16 日~23 日の明るさは-0.8~0 等。

金星

日の入り直後の西の低空に位置。見かけの位置が太陽に近く観察は難しい。

火星

やぎ座からみずがめ座にかけての領域を東に移動。見かけの位置が太陽に近く観察は難しい。

木星

ふたご座の領域を西に移動。宵の東から南東の空に見え、明るさは-2.6~-2.4 等。

土星

うお座の領域を東に移動。宵の西の低空に位置し、明るさは 1.0 等。